

# 愛教労ニュース

## 愛知の教育を考えるつどい(10月27日)

### どうする?! 道徳科 ~道徳教育のベクトルを考える~

10月27日に金山の労働会館で「愛知の教育を考える集い」(愛教労主催)が開かれ、午前、渡辺雅之さん(大東文化大学)の講演がありました。



渡辺さんは、道徳とは「異なる他者と共に生きる術」であり、そのために、学び、見る力を獲得することであると話されました。そして、今、文科省が進めている「道徳科」の問題点として、①「道徳の教科書で扱っている教材は、さまざまな問題を個人の心のありようの問題として扱っている内容が多い(自己責任論・心理主義)」、②「徳目をことさら強調している」、③「偏狭なナショナリズム(愛国心の押しつけ)」の3つを指摘されました。

それは、フリージャーナリストの安田さんが解放されたことに関して、日本では、「自分勝手だ」「国が助ける必要はない」といった自己責任論の風潮が根強くある状況ともつながっており、「戦場のカナリア」とも呼ばれているフリージャーナリストの存在の意味や重要性についてもっと考えることが必要であると話されました。また、家族や家庭を扱った教材でも、挿絵の多くは、「母親は常にエプロン掛け」「父親は居間でどっしりと座っている」といった構図で描かれていることが多いと指摘されました。しかし、現実には、さまざまな家族や家庭があり、生活スタイルもさまざま、教科書で描かれた挿絵には違和感があり、「家族は、こうあらねばならない」といった押しつけが感じられます。

そして、渡辺さんは、道徳教育を実践的にどうするかという点に関して、「道徳は学校教育全体を通じて

行うもの」(学習指導要領)、「道徳的諸価値は、現代社会の様々な課題に直接関わっている。児童には、発達の段階に応じて現代的な課題を身近な問題と結び付けて、自分との関わりで考えるようにすることが求められる。」(学習指導要領解説)、「読み物の登場人物の心情理解にのみ偏り、こんな価値観を読み取るべきだと一方的、形式的な指導が中心になっていないか」(考える道徳への変換に向けた文科省ワーキンググループ資料 2016)と、文科省自身が示していることに注目することが必要だと話されました。それを根拠に、①既存教材を読み替える②既存教材から発展させる③自主教材を編成する、といった工夫が可能になり、自分がねらいとした実践を進めることができると話されました。

最後に、「教室には、教科書で扱われているような、『いじわるなおおかみ』も、『うそつきのひつじかいの子』も、『わがままと言われるかぼちゃ』もいる。多様で異質な他者が教室にいることは、それだけトラブルも起きてくる。しかし、いろいろな感じ方、考え方があがるゆえに、多様な意見を聞き合うことができる。そして、安心して話し合う場が保障されれば、答えが1つではない課題に向き合う力を育むことができる。多様な子ども達がそこにいることを大事にすること、そして、教師も多様な人間のひとりとして、子どもと共に学ぶ姿勢を大切にしたい。」と話されました。(3つの分科会の様子は、次号でお伝えします)

## 教育予算の大幅増額を求める全国署名実施中

	児童生徒数/教員	教育費/児童生徒
小学校	44位	44位
中学校	45位	最下位
高校(全日制)	45位	最下位
障害児学校	46位	46位

学校基本調査より



豊かな教育実現のためには、国と県の教育予算を大幅に増額させることが必要です。

教育予算の大幅増額を求める全国教育署名は、今年度も9月より始めています。

請願の項目は、

- ・教育予算を OECD 並に増やす
- ・国の責任による 35 人以下学級
- ・教育費の保護者負担の軽減
- ・教育条件、設備の改善

に加え、今年は教職員の過密労働解消のための抜本的な教職員定数改善が加えら

れています。これらの署名は 12 月に県議会、1 月からの通常国会に請願を出すための署名です。署名は 1989 年に始まり、総計で 4 億 5 千万筆以上集まり、国を動かしてきました。愛知県内版では、高校への希望者全入の為の計画進学率の引き上げも項目に入っています。

## 止めよう！改憲発議 11.3国会前大行動

11月3日、「止めよう！改憲発議ーこの憲法で未来をつくる 11・3国会前大行動ー」が開催されました。日本国憲法が公布されてから72年目。安倍政権打倒と改憲発議絶対阻止を合言葉にした集会でした。



3日の午後1時半から30分遅れて、私は愛教労の代表として初めて集会に参加しました。東京駅から徒歩で国会議事堂へ向かいました。国会が見えてくると大勢の人々のシュプレヒコールが聞こえてきました。国会議事堂前の通りには幟を持った市民団体の人々が並んでいました。「ウソだらけの安倍政治を変えよう！」その裏には「止めよう！改憲発議」と書かれたプラカードを持ち、国会議事堂を見据えて叫んでいました。歩いている途中で私もそのプラカードを受け取りました。

私たち全教の集合場所は、国立国会図書館前でしたので国会議事堂から更に人々の前をしばらく歩き続けて、やっと目的地に到着しました。図書館前の通りにも人、人、人で一杯でした。そこにいたすべての人が、この集会のために集まってきた人々でした。国会図書館の入り口に、教職員の幟を掲げる人々や横断幕を持つ全教に所属する人々が、国会の方を見つめ立っていました。私もその近くに立つ場所を確保し、シュプレヒコールに参加しました。

当日の参加人数は2万8000人だったそうです。韓国の汚職にまみれたパククネ大統領を引きずり下ろしたキャンドルデモの参加人数にはまだまだ及びません。ウソだらけの安倍首相を何とか退陣に追い込みたいと強く思いました。機会があればまた集会やデモに参加したいと思います。

(翌日の福島でおこなわれた「福島のいま」は、次号でお伝えします。)



### 名古屋の中心地でも 安倍暴走ストップで毎月19日集会・宣伝

全国から反対の声が上がり、最終盤には国会を包囲して反対の声を上げた国民の声を無視して、「戦争法」の成立が強行されてから3年の9月19日。愛知でも安倍政権による「戦争する国づくり」に反対する集会が開催され、1000人が集いました。

その一月後の10月は、名古屋駅・金山駅・栄をはじ

めとする各地域の主な場所で、「安倍暴走ストップ」アクションがおこなわれ、愛教労は横断幕と愛教労幟を持って参加しました。

さらに、11月3日には矢場公園に1万人が集い、昼間は集会と弁護士や辺野古新基地反対、原発反対の訴えと講演、その後サウンドカーを先頭にして大須までのデモ。夜は、栄までのキャンドルパレードで、一日中「安倍暴走政治ストップ」で染まりました。

### 柴山文部科学大臣の教育勅語についての 発言の撤回と辞職を求める

衆院で排除、参院で失効を決議 1948年

10月2日の就任記者会見において教育勅語に対する認識を問われ、柴山昌彦文部科学大臣は、「現代風に解釈をされたり、あるいはアレンジをした形で道徳等に使うことができる分野は十分にあるという意味では、普遍性を持っている部分が見て取れる」と述べ、教育勅語を道徳教育等に活用できる考えを示しました。

文部科学大臣のこの認識は、憲法に反する原理を子どもたちに押しつけ、「戦争のできる国」づくりに道を開くものであり、断じて容認できません。

さらにその場での「どの辺が今も十分に使えるのか」との記者の問いに対して、「同胞を大切にするとか、あるいは国際的な協調を重んじる」などをあげています。家族や友人を大切にすることや国際的な協調などについて子どもたちとともに考えるために、わざわざ教育勅語を持ち出すこと自体に、意図的なものがあると言わなければなりません。

教育勅語は、教育に対する基本理念として天皇が国民に命じる形式で制定されたものです。教育勅語は、天皇のために命を賭して戦うことを美徳として国民に求め、戦前の道徳「修身」では、「天皇のために命をささげよ」と教えてきたのです。

子どもたちを侵略戦争に駆り立てた反省から、日本国憲法のもとで、1948年に衆・参両議院で教育勅語の排除と失効をそれぞれ決議しました。衆議院の決議では、教育勅語の基本理念が「主権在君」や「神話的国体観」にもとづいていることを指摘し、「直ちにこれらの謄本を回収し、排除の措置を完了すべきである」としています。

憲法の理念に反し、教育勅語の活用を容認する柴山文部科学大臣の発言は到底認められるものでなく、閣僚としての資格はありません。

愛教労は、柴山文部科学大臣の教育勅語についての発言の撤回と、柴山文部科学大臣の即時辞任を強く求める要求書を関係機関に送付しました。

### 全教障教部全国代表者会議 & 障害児学校の設置基準策定を求める全国交流集会

全教障教部の代表者会議では、新しい運動の方針として、障害児学校の設置基準の策定を文科省に要求していただくだけでなく、こちらからも具体的な設置基準を要望していく必要性が提起されました。

全国の代表者からは、特別教室の普通教室への転用、教室をまじ切って2教室での授業、トイレ不足など、劣悪な環境の下で教育を受けている実態が報告されました。その最大の理由は、特別支援学校には、設置基準がないからです。年々増える在籍児童生徒数に支援学校の増設が追いついていかず、詰め込まれているのです。

愛教労からは、週20時間勤務の再任用教員が2人で特別支援学級の担任をしている実態と全国障害児学級・学校学習交流集会(来年1月仙台市で開催)に6名の参加が確定している(愛教労始まって以来!)ことを報告しました。

「設置基準の策定を求める会」の交流集会では、地域で「会」を立ち上げて街頭署名にも積極的に取り組んだり、PTAにも呼びかけて共同で運動を進めたりしている保護者の方々からの熱のこもった発言に圧倒されました。また、設置基準への要望も具体的にいくつか出されました。その中で印象に残ったのは、雨降りにも対応できる屋根付きのプラットホーム(通学バス用)の設置でした。雨の中、多くの子どもたちでごった返す様子が想像されました。子どもたちに寄り添った設置基準をこれから練り上げて要望してい方向性が見えてきました。

愛知でも保護者・地域の皆さんと共同して運動を進めていく重要性を強く感じました。